



なきごえ



1990

4

大阪市
天王寺動物園協会

高田 研



環境教育という言葉がやたら使われるようになりまし。能勢にある豊中市の少年自然の家で、タヌキと子供たちが遊ぶ取り組みをやっている私にも、何か活躍できる時代がや

ってきたのではないかと錯覚し、最近私のタヌキと遊ぶプログラムも環境教育といういかめしい教育の片隅に並べさせて戴いております。

では、私のタヌキ遊びの話を紹介しましょう。晩秋、道のまん中に落ちていたウンコを発見するところから始まります。

そのウンコをキャッキヤ言いながら棒の先でいじくりまわしているうちに、中にたくさん柿の種が入っているのに気づきます。子供たちは近くで実が木に残っている柿の木を捜し出し、

「絶対この木や。」と断定して、きれいな柿を1つもいで食べてみます。「げー、こんな食べられへんわ。」

実は渋柿なんです。これはタヌキにも食べられないだろうと子供たちは思うのですが、下に落ちていはずの柿の実が一つもない。

「なんであれへんのやろ。」この疑問が大切ですね。観察の鋭い子は木に残っている、もう落ちてしまふ赤黒く熟した柿に鳥がつついた跡を発見します。でも体感したあの渋さは既成概念としてできあがっているわけですから、こう考えます。

「きっと、鳥もつついたけど渋くてやめたんや。」

ここで私の登場です。この渋いはずの柿の実を食べてしまうんです。

「渋くないの？」

子供たちはマジシャンの私に驚き尊敬するわけです。みんなにも食べさせると、とても甘いことを知ります。柿の木マジックですね。つまり柿の木は熟して落ちそうになるまでは渋くて、完熟してしまうと木の枝で甘くなって下に落ちる。それをタヌキが拾って食べて持ち去り、他の場所にウンコ（肥料）と一緒に落として来る。すばらしく巧妙なタヌキと柿の関係の構図が子供たちにも見えてくるわけです。

遠くの里山に目をやると、葉を落とした木々の中にぼつんぼつんと実が赤く残っている柿が見えます。あの柿ももしかしたらタヌキのウンコから生えたのかと思うと、なにか楽しくなります。

環境教育というのは態度の育成まで伴う必要があるというので、私たちもタヌキにならってカキは種まで食べ、みんなで森に出かけてウンコをする取り組みを現在考えております。

またタヌキの気持ちになるプログラムではタヌキのけもの道（トトロの穴と呼ばれている）を夜中に子供たちと4つばいになって這回る遊びもなかなか好評です。最初いやだと泣いていた女の子が最後はのめりこんでしまい、今度は宿舎にかえるのをいやがったり、なかなか家では許してもらえない森の夜遊びは新鮮なインパクトがあるようです。

豊中市立新田小6 右見 嘉英
ふと上を見ると、すっごく星がいっぱいあってきれいでした。もう空じゅう星だらけでした。タヌキの細い道を抜け出したとき、枝や葉が体にくっつき、つらかったです。みんなでねころんで星を見ました。ぼくは心がすっとして、ただぼーっとしてました。水の音がお腹の奥に響きました。

(豊中市立第八中学校教諭)

なきごえ4月号もくじ

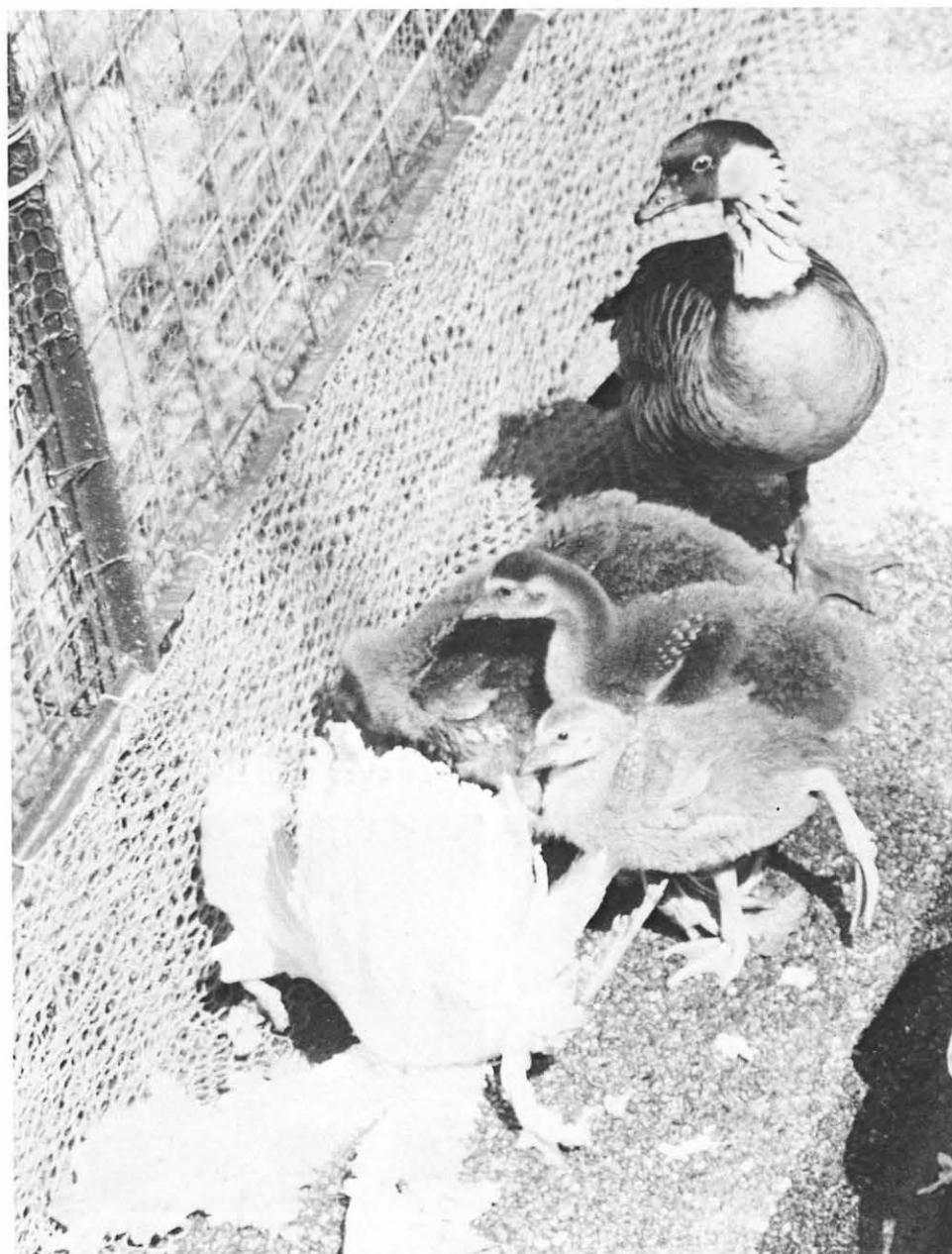
動物と私 2
“ハワイガンのヒナ誕生” 3
動物園グラフ・動物園日記 4-5
保護入院動物の飼育管理あれこれ 6-7
野生動物たちはいま 8-9
獣医室から⑤② 10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明

カラフトフクロウ Strix nebulosa

昨年11月11日に大阪市の姉妹都市であるソ連・レニングラード市から贈られて来ました。ヨーロッパ、北アメリカ北部に生息し、目を中心にした同心円状の縞模様が特徴的です。日本の動物園には初のお目見えです。

(撮影：宮下 実)



“ハワイガンのヒナ誕生”

昨年12月30日から産卵を始め、今年に入って抱卵を続けていたハワイガンが、2月6日、4羽ふ化しました。ヒナの成育は順調で、3月に入ってから鳥の楽園（バードケージ）で親子で展示を始めました。

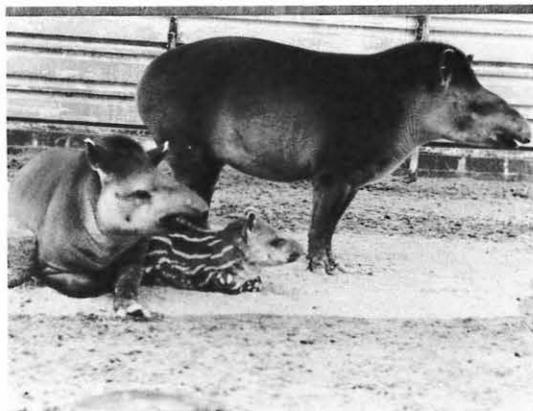
(撮影：山下 賢二)

動物園グラフ

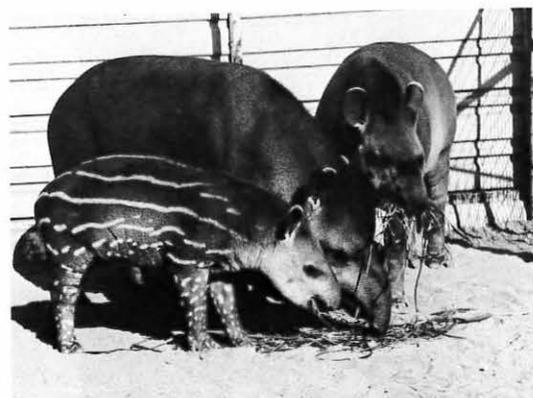
“The Family”

春がやって来ました。ベビーラッシュのシーズンです。今回は可愛い動物の家族をカメラハンティングしてみました。

(構成：山下 賢二)



アメリカバクの親子です。ホ～とした顔が見る人の心をなごませてくれます。



春の暖かい日射しをあびてみんなでビタミンC一杯の青草をムシャムシャ!!



メエ メエー 可愛いヒツジ
6月1日は毛刈の日、だけど私達は来年までお預け!!



おいしい「お乳」力強く
ゴクン/ゴクン/

1・2月の動物園日記

- 1 / 24. 鳥の楽園 (バードケージ) の中の鳥の数を調べました。
- 1 / 29. アヒルを1羽保護しました。
- 1 / 30. 羽を怪我して飛べないユリカモメを2羽保護しました。
- 2 / 1. 動物園でも昨日から降り続いた雪が積もりました。ペンギンやヒグマのように喜んで飛び回る動物もいれば、ライオンのように寒くてぶるぶる震えている動物もいました。
- 2 / 4. 雪のため餌用の青草が手に入らなくなりました。動物たちには雪が溶けるまでちょっ

- との間我慢してもらってます。
- 2 / 5. 夜行性動物舎のインドオコウモリが1頭生まれました。新世界から美術館までの通路が完成しました。
- 2 / 6. ハワイガンが4羽自然ふ化しました。翌日寒さから保護するため育雛舎に移動させました。
- 2 / 12. カイウサギ2頭がケガをし、入院しました。
- 2 / 14. カワウが巣作りを始めました。アジアゴールデンキャットに虫下しの薬を注射しました。数日後の検査で、寄生虫が完全にいなくなったのを確認しました。



去年に続いてふ化したハワイガンのヒナ
元気に4羽が育っています。



ママ…お乳ちょうだい!!
まあまあ こんなに大きいのに恥ずかしいよ!



サル舎は赤ちゃんで大賑い
フランソワルトン、ブラッサゲノン、
マントヒヒ、サバンナモンキ etc



ブラックバックは群れで行動します。
みんなどこへ行くのもいっしょです。

- 2 / 15. ニホンイシガメの上のまぶたが腫れてきたので治療を始めました。
- 2 / 18. 第58回動物のお話とスライドの会で「猛獣ウォッチング」を開催しました。
- 2 / 20. 1/29に保護したアヒルを長居植物園の大池に放鳥しました。
- 2 / 21. 1/30に保護したユリカモメをバードケージに収容しました。愛媛県とべ動物園の職員17名が来園されました。
- 2 / 23. ヒツジが1頭生まれました。今年に入って6頭目です。とべ動物園の第2陣17名が来園されました。

- 2 / 24. 天王寺公園が装いを新たにオープンしました。
- 2 / 25. トカラヤギが1頭生まれました。未熟児で、自分で母乳が飲めないため人工哺育を始めました。
- 2 / 26. バードケージで巣材上げ作業を行いました。
- 2 / 28. アカカンガルーの血液更新のため、神戸市立王子動物園と交換しました。ニホンイシガメの目の病気が治りました。ピューマ、ホッキョクグマが交尾しました。今から赤ちゃん誕生を楽しみにしています。

保護入院動物の飼育管理あれこれ

なぎごえ26(4),1990

1989年度も数多くの野生動物が当園の病院に収容されて来ました。毎年増加傾向を示していることは一般市民のみなさんに野生動物保護精神が浸透しつつあることの1つの証といえるでしょう。その反面ペットを飼っておられた方が動物を捨てられるケースもたまにあるということも現実としてあります。その理由もいろいろあることと思われませんが悲しいかぎりです。

それではこれより保護されて来た動物を例に上げながら、野生動物保護ということを考えてみたいと思います。

例1として、5月19日に保護されて来たヒナのフクロウを取り上げて見ます。このヒナのフクロウですが収容当時はまったく与えた餌を口にしませんでした。それで餌の味をおぼえさせることから始めました。餌を一口大に切り、口の中に差しこんでやるわけです。このフクロウの場合は餌を自分で食べるのに、それほど時間はかかりませんでした、種類や



保護され、アジをさし餌されているオオミズナギドリ

個体によっては1週間近くかかる場合もあります。そして次に自然復帰を目的としていましたので、自分で餌を取れる様にと、マウスを餌としてやりましたがつめに引っかけて、もてあそぶばかりでした。生きたマウスを与えた時でもながめているばかりで取ろうとはしませんでした。それに人間にもなれて来たということもあって、7月30日に展示飼育とい



テグスのからまったキジバトの足

う形をとりました。このフクロウにかぎらず、春から夏にかけての繁殖時期になりますと、キジバト、ヒヨドリといった鳥類や哺乳類の赤ちゃんが数多く保護されて来ます。

例2としまして、8月8日に保護されて来たトビのことをご紹介します。

収容時あまり衰弱はしてなかったのですが、左上腕骨を骨折してました。それで翼を動かない様にテーピングをしたわけですが、なにしろ野生の動物なので、「動かないように」と言っても人間をこわがってあばれ回り、固定するのにけっこう時間がかかりました。そして10月7日自然復帰させる日が来ました。当日飛べるかどうか前日までにテストすることが場所などの関係で出来なかったのも、少々不安ではありましたが、大空高く舞い上がって飛んで行った時は、うれしさと、ほっとした気持ち、それにさびしさが入りまじった心境でした。飛び方は少々無格好ではありましたが。

このトビの場合、餌をしっかり食べていたこと、衰弱があまりなかったことや、骨折部分が比較的上腕部であったことなど早く直る要素が重なったことで自然復帰がかなったと思われます。骨折部が骨端部である場合はうまく治らないことが多いようです。

今まで2点の例を上げてまいりましたが、この他にも自然復帰出来た動物たちがいます。しかしその反面、力つき死んで行くものも数多くあります。その中でも、収容時に衰弱がひどく手のほどこしようなものもよくあります。衰弱の度合いが軽ければ軽いほど生存率は上がると思います。その意味

なぎごえ26(4),1990

でも市民のみなさんが野生動物を保護された時は出来るだけ早く専門家に見ていただいた方がよいと思います。

野生動物を保護し、自然復帰させて行くことはかなりむずかしいことだと思いますが、人間ひとり1人が意識を持ってやれば多くの動物たちが楽しくくらし行ける世界を広げられることでしょう。その意味でも次に上げる例は、人間の手によって自分たちの生活を奪われた典型的な出来事であったように思われます。

小さな猛禽といわれるモモアカヒメハヤブサ雄雌1羽ずつが、6月9日に大阪空港税関で保護され収容されて来ました。このモモアカヒメハヤブサという鳥は、ワシントン条約により海外に持ち出す場合は許可が必要であり、今回のヒメハヤブサは無許可でありました。この鳥はその後、世論の盛り上がりで国と航空会社のご理解により11月30日、生まれ故郷のタイに帰って行きました。

モモアカヒメハヤブサは、こちらで与えた餌も良く食べ、病気一つせず元気でしたが、一つまちがえ



ワシントン条約違反で緊急保護されたモモアカヒメハヤブサであれば死につながるわけで、そういう意味では死と背中合わせだったことだと思います。

野生動物全般に言えることですが、今まで住んでいたところから急に環境が変わるとそれがストレスとなり、衰弱したり、餌を食べなくなったり、ショック死したりすることが多々あります。それに、どんな小さな生きものであっても、つかまれたりすることはいやがり、抵抗するわけですので、保護される時は十分気をつけなければなりません。

もう一つ自然復帰出来た例を上げてみたいと思います。それは10月31日に保護され、11月9日に自然復帰させたオオミズナギドリです。この鳥は、アジをおもな餌なのですが、アジを檻の中に置いておくだけではまったく食べてくれません。そこでフクロウのところでもお話した様に口の中に餌を入れるわけですが、この鳥は口の中だけでとはきだしてしまいます。口の中に餌を入れのどをこえ胃の中まで入れてやらなければなりません。これを1日2回ぐらい行うわけですが、やりすぎるとストレスとなり衰弱します。また、餌を食べさせすぎると、こんどは体重が重くなり、飛行のさしきわりとなります。体重計にらめっこしながら餌を食べさせ、体重が重くなりすぎないように気を使いながら飼育していくわけです。



保護され人工育雛中のスズメ

自然復帰の出来た動物たちは、厳しい生活環境で生きて行かなくてはなりません。しかしながらその厳しい場所で強く生きて行くためにはちょっとでも適応できるように、こちらが何かにつけて気を使っ

てやらなくてはなりません。4つほど例を上げてまいりましたが、人間ひとり1人の考え方、行動により野生動物が生きるか死んで行くかが決まるといってよいと思います。市民のみなさんも街で野生動物が、けがなどしているのを見かけられた時は、面倒臭がらず保護してやってください。私もしっかり勉強し、1つでも多く自然復帰できるようがんばっていきます。市民のみなさんと動物園とが協力しあいながら、自然を守って行くことではありませんか。

(飼育課：岡田博之)

梶浦敬一

海こそないものの海拔ゼロメートルから3千メートルの山々まで存在する岐阜県。日本のほぼ中央に位置するばかりか、北方系の植物から南方系の植物に育まれた様々な自然がわずかに残っている。その郷土の動物を10年近く追いかけているが、言葉こそ持たないが何かを話しかけようとしている動物達の声がいまではわかるような気がしてきた。

野生動物との出会いは、郡上郡八幡町の鍾乳洞に発見したたくさんの動物化石が、動物の体のある部



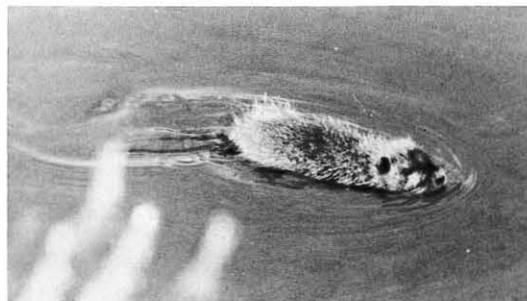
巣穴から顔を出すムササビの親子(加茂郡川辺町)

分しか残ってなく、対比のため現在の動物の骨格を集めたことに始まった。また勤務地が山々に恵まれた奥美濃であったことも幸いした。なぜならば珍しい動物の発見の多くは、地元の高등학교の生物室に持ち込まれたこともあって多くの動物との出会いがあった。また恵まれていた自然に何も感じなかったのに、その土地を離れて日本ラインで知られる美濃加茂市にきて、奥美濃が改めて動物の話題が豊富であったことに気が付いた。そんな感慨にふけていたとき地元木曾川のほとりでアライグマの子供が保護されたニュースを聞いた。もしや繁殖しているのではないかと、繁殖していたならば広がってしまってから広がりルーツを探るのは容易ではない。それがたとえ広がらなくても追いかけて始めてから調査が本格化した。

野生の動物は夜行性のものが多くなかなか近づけないのが現実。そこで自動カメラの試作を試みた。センサーはお店の入り口のを改良したり、部品の注文日数を入れて一月かかった。機械が出来ても『けものみち』がわからないなど、一つ一つの疑問の解決はまた楽しみに変わって行った。けものみちを推理し自動カメラをセットして2日目の夜、撮影出来た最初の写真はなんとアライグマというラッキーな

面もあった。アライグマを一年中自動カメラで追って、彼らの日本における生活を調べた。一つの動物をすこしでも理解し始めると不思議にも他の動物も私にはみえてきた。キツネは蛭ヶ野と付知峡で、テンは川辺町、イタチは岐阜市内の川岸を歩けばあえた。このように場所と時間も関係した。その後リス、オコジョ、カモシカ、ニホンザル、タイワンリス、ハクビシン、ツキノワグマ、タヌキ、ウサギ、ネズミ、ヌートリア、アナグマ、モモンガ、ムササビ、の撮影が出来た。そしていまも自動カメラを回収しフィルムの見像を見るその感動は最初の頃とかわりない。

こうして私と野生動物との付き合いの距離は近くなった。時計をセットし、彼らが山から里に降りて来る時間、季節等、彼らのみえなかつた多くのことを知ってからである。写真だけでなく直接の出会いが始まり、今では多くのフィールドができた。子供のころから山によく出掛けて行ったのに、今思えば一度も動物たちとの出会いがなかった。それがいま出会いを写真に収めて多くの人に感動を見てもらうことにし、動物調査の初期の目的である教育への還元



巣穴から出て来たヌートリアの子供

という意味で、岐阜県高等学校の実験書の表紙写真にここ5年間、ムササビ、キツネ、タヌキ、白いタヌキ、ヌートリアの写真を掲載している。

岐阜県内の野生動物たちの調査をすすめている段階であるが、アンケートや猟師の聞き取りでもけものたちの減少は都市部周辺に限らず山間部にも言える。キツネは草場が減少したことと餌となるネズミ、ウサギがいなくなり皮膚病も流行したなどで減少が著しい。一方タヌキは人里において人と仲良しになることもできたりして、その個体数をふやしているものの、道路が山奥まで整備されたおかげで自動車にはねられるケースが後をたない。カモシカは奥山まで伐採された山に草が生え餌が豊富になった

から個体数が増加した。いまでは正確な棲息調査がなされないまま、特別天然記念物が増え過ぎたというので今度は有害獣扱いを受けているという。なぜ正確な棲息調査をしないのかおかしな話である。植林が奥山まで進んでムササビ、モモンガ、ヤマネ、リスまでが減少している。大木が伐採され、木の実がなくなってイノシシ、ツキノワグマの住める場所もほんの僅か。ツキノワグマに至っては蜂蜜を使った箱罾での密猟が後をたないで、すがたを消すのも時間の問題の運命にある。ニホンカワウソが岐阜から姿を消してから40年ぐらいいまツキノワグマが、ニホンジカがこれにつづこうとしている。

そんな岐阜県の地にハクビシンが長野県から入り、20年近くの間にはほぼ全域に広がってしまった。御岳の南の裏木曾での針葉樹林帯にも棲息してモミの実をたべていた。山間地では柿の実をたべにきた。平野部に進出しトモロコシや柿の実、トマトにも被害がはじめた。また、タイワンリスも一部に棲息分布が認められる。アライグマは可児市を中心に棲息し、昨年スイカを食い荒らすということで捕獲作戦がなされた。岐阜県だけでなくペットがいなくなって野外に放置することが後をたたず、ネコ、イヌを含めペットが野生化し野生動物にたいして脅威を与えている。多くの問題が岐阜県に発見出来、



畑に出て来て遊ぶニホンザルの子供達

野外実験室だといっても言い過ぎない。ここ10年の間には、南米産の巨大鼠のヌートリアは西濃地方のほぼ平野部に棲息がひろがり、夏は稲に、冬はホウレンソウに被害があるためすぐに有害獣駆除の対象になった。こうした帰化動物といえども棲息出来る自然環境がまだ残されていたのかもしれない。

猟師への聞き取りの中で猟師たちは、岐阜の山々には植林が奥山まで進んでいる、それはそれで必要だと思う。だが国有林や、水源林、国民の森と称する所ぐらいい夏緑樹林の林を残す事が出来ないのか。

地球に生命が誕生して今日までの35億年の間、生物が進化し多様化した過程を、今人間の手でいとも簡単に一様性の植物に置き換えてしまうのはあまりにも愚かな事ではないか。かなぎ(雑木)林をもっと作るべきではないか。これこそ国民の森だ……という提言をされたことに対して、同感の思いをしている昨今である。

一方猿害、カモシカの食害と様々な話題が新聞紙上をにぎわしている。我々がどこかで間違ったことをした償いを求められているのかも。

一昨年の秋、岐阜県のほぼ中央部、加茂郡内の神社約100ヶ所をまわりムササビの棲息調査をした。その結果約半数の神社に棲息が確認された。この調



ムササビウォッチングに熱中する子供達

査ではムササビが予想より多くいたことより、大木が残されて棲息出来る環境が神社以外なくなってきていることは確であると思えてならなかった。その神社には、明らかに移植した植物とそうでないものもあるが、何百年と経過した木々など残されて、岐阜は木の国というのに原生林はどこかにあるのかなと探さなくてはならなくなった。その意味で神社だけはいつまでも残されようとしている。いわゆる自然の博物館だとムササビはおしえてくれた。

さて動物園の役目はそれなりにいま目的をなしているといえるのだが、しかし多くの野生動物とのかかわりの中で学び得たものは、彼らに会うためにはある法則性があり、生きるための知恵を教えてください、動物園とは比較出来ないかも知れないがとにかく美しいということであった。鍾乳洞で発掘したニホンモグラネズミの化石は大陸と日本が陸地続きであったころの動物であると教えてくれ、岐阜県内のコモグラとコウベモグラの棲息境界線があった。また野生動物はその土地その土地にあった植物の森を未来に残さなければならないよと、我々に語りかけているようだ。

(岐阜県立加茂高等学校)

§ 異常の発見

当園には、ライオンが6頭います。うち5頭は広い放飼場に展示されています。オスが1頭で、残り4頭がメスです。そのメスの1頭“ハル”(13歳)の左前足の前腕部内側にふくらみが確認されたのは昨年12月初めのことでした。日を追うごとにそのふくらみは大きくなり、ハルもその部分が気になるのか、なめるようになり、突出部の一部がはげ、皮下の組織が露出しているのが観察されました。化膿巣あるいは腫瘍かと思われませんが、検査しないかぎり、正確な判定は下せません。そこで、我々獣医達は、その月の18日に、検査を兼ねた手術を実施することを決定しました。

§ 麻酔

ライオンを手術する場合、麻酔を、局所だけにやることは不可能ですから、全身的となります。今回



麻酔中のライオン(手術前)

は、吹矢注射法を用いて、麻酔薬を注射することにしました。体重も150kg程はあるものと推定され、それに見合う、麻酔薬の量は、イエネコなどの50倍はいることになります。家畜で一般に使用されている注射用麻酔薬では濃度が薄すぎ、多量を注入しなければならなくなりますから、その薬も特製の濃いものを使っています。薬剤は、塩酸ケタミンと塩酸キシラジンという2種の併用で行い、総量4.2mlを注射しました。残念ながら麻酔効果がやや不十分で、横にはなったものの、15分経過しても深い麻酔に入らないため、追加注射を実施しました。25分後、檻外より鉄棒でつつき、麻酔でぐっすり眠っているのを確認後、檻内に入り、まず全身の診察をはじめました。特に患部を見るため左体側が下になるようにライオンの体勢をかえました。が、この時、ライオンが自分の尾を少しふったために私の頭に命中しました。軽くあたったといえども、その衝撃に、あら

ためてライオンの尾の硬さにおどろきました。

§ 摘出

その後、前足の患部が、うみのたまった膿瘍なのかそれともガンのような腫瘍なのか否かを見るため、簡単な検査を行いました。判定は腫瘍で、そのまま手術し、摘出することにしました。患部皮膚の毛をそったあと消毒を十分行い、電気メスを用いてすぐに切開に入りました。腫瘍周囲の血管はたいへん多く、出血を止める操作は難行を極めました。特に、動脈系の血管を切ったときは、血液が噴水のように飛び出るので大変です。このような場合は、糸で結び出血を止めるしかありません。約50分後にその腫瘍を全て摘出することができました。そして、たるんだ皮膚を整形し、少し太めのワイヤーを用いて皮膚をぬい、閉じました。普通、皮膚をぬうのは絹糸を用いますが、ライオンを含むネコ科の動物では、すぐなめとられてしまうので、ワイヤーを使っています。手術開始後80分経過し、全処置を終了しました。

§ 病理診断と治療

手術後、病理学的検査を実施したところ、摘出した腫瘍は悪性ではなく、良性の脂肪腫と判明し、我々はほっとしました。

手術後18日を経過し、ワイヤーを取り除きました。この部分がまだ少し気になるのか、なめることをやめようとせず、もう少しで治るところ、なかなか患部が治りきりませんでした。しかし、2月の末にはそれもほとんど分らない位になりました。まだ、左前足は消毒液など、治療の跡形を残していますが、



摘出された腫瘍

に見せてもらいたいものです。

(飼育課：森本委利)

§ インドオオコウモリの出産

インドオオコウモリの赤ちゃんが、2月5日早朝生まれてるのが確認されました。夜行性動物舎オープン(昭和60年1月)以来、2度目の出産で、繁殖した母親は前回とは別の個体です。子供は現在順調に育っており、同舎のオオコウモリ展示室で見てください。



インドオオコウモリの母子、18日齢。

§ ハワイガンの赤ちゃん誕生

さる2月6日、昨年に引き続きハワイガンのヒナのふ化に成功しました。昨年は3月16日ふ化で、自力でふ化することができず、ふ化直前にふ卵器に移し、担当者が殻を割ってふ化させましたが、今回は親による自然繁殖で、4羽ふ化しました。2月でもあり、寒さのことを考慮して、バードケージ“鳥の楽園”とは別棟の育成舎で両親とともに隔離飼育することになりました。

ハワイガン親子。20日齢。

ハワイガンは、かつてはハワイ諸島に25,000羽以上生息していましたが、食用などの乱獲で1953年には野生で33羽、飼育下で35羽と激減し、絶滅寸前まで追い込まれましたが、その後の保護活動によりその数も増加、野生へも人工下で繁殖したものが戻されています。日本では現在10カ所の動物園で飼育されています。ヒナたちも3月には、バードケージ内にお目見えする予定です。

§ タンチョウの子別れ

昨年6月5日、同7日にふ化した2羽のタンチョウも成長し大きさは親とほぼ同型となりました。3月に入ると、子別れのシーズンが到来します。この時期、今まで両親から厚い愛情をうけてきたヒナたちは、まるで手のひらを返すように親から攻撃をうけることになります。自然界と異り限られた面積のケージ内では、両親のなわばりから飛び去ることはできません。そこで両親からの攻撃を未然に防ぐため、人手によ



両親と別れたタンチョウのヒナたち。

現在の飼育動物数

(平成2年2月28日現在)

哺乳類	13目	105種	471点
鳥類	20目	188種	723点
爬虫類	3目	33種	80点
合計	36目	326種	1,274点

て親子を分けているのです。ヒナたちは2月22日、コウノトリ舎からツル舎へ移動し、展示しています。なお、成熟するのは3歳です。

§ 天王寺動物公園オープン

天王寺公園の再整備は、昭和63年12月より行われてきましたが、2月24日、オープンセレモニーが盛大に催されたあと、一般開園の運びとなりました。入園料はおとな150円、16歳未満および65歳以上の方は無料となっています。美術館、動物園へ入場される方は、それぞれ差額を50円、250円支払っていただきますと入場できます。

天王寺公園の入場門は、JR天王寺駅前と美術館下に新築され、公園内には、映像館を併設した植物温室、水の広場、バラのアーチほか、従来の公園にはなかった新施設が数多く建設されています。

動物園側では、新世界ゲートが、もと中央門付近に新設され、レクチャールームのデッキ部分とそのゲートを結ぶ陸橋が新設され、入園者の皆様が地下道を通ることなく南北の園を自由に行き来できるようになりました。



新しくできた新世界ゲートと橋

なお、橋の上は一般通路となります。また、動物園、公園各々の事務所は一体化し、天王寺動物公園事務所と名称を変更しました。

§ シュバシコウのための巣材上げ

毎年恒例の巣材上げが、2月26日朝、バードケージ“鳥の楽園”内で行われました。楽園内に設置されている大小の擬木10基には、それぞれ2個の巣皿が取付けられています。その上により人手によって巣の材料となる柳の小枝を入れてやるものです。柳の小枝は小型トラック1台分で、大阪市内の公園で剪定したものです。



シュバシコウのための巣材上げ

● お知らせ

動物のお話とスライドの会

4月15日(日) フクロウのお話

5月20日(日) 動物昔話

6月17日(日) オオカミのお話

時間：午後1時～2時

場所：北園レクチャールーム

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。

開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑 一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりものが待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



入園の記念に…

天王寺動物園の本

オールカラー

500円

園内売店にあります。

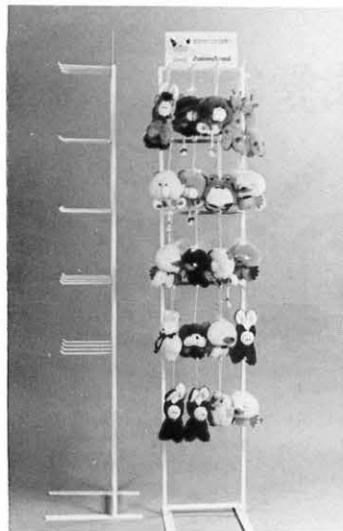
- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対 象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸 出 料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申 込 先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800 (50度用)



大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

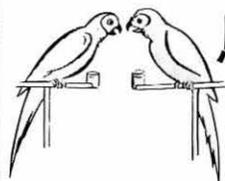


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

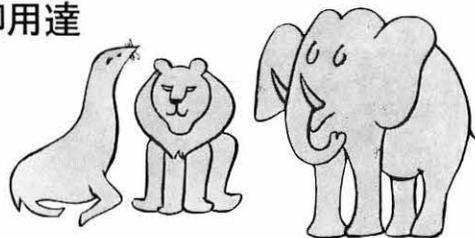
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL : (06) 704-8580
FAX : (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

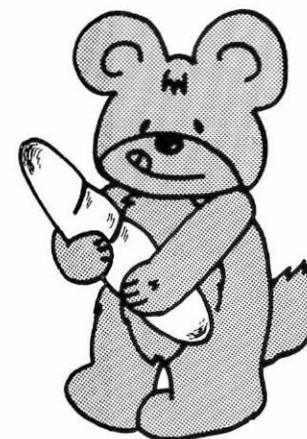
関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

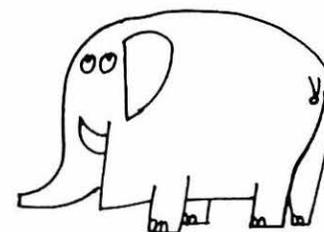
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内

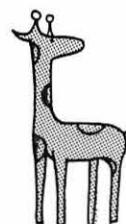


南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー
とってもゼリー



野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問い合わせは——
社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。



●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1990年4月10日発行(毎月10日発行)第29巻 第4号 (通巻296号)

編集/大阪市天王寺動物園
発行人/大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎
印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74
電話 大阪 (06) 771-0201
振替口座 大阪 3-37823

編集委員

伊東重朗 / 大西史朗 / 藤野勝吉 / 中山良三郎 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 奥上 昇 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 榊原安昭
森本委利 / 竹田正人 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 建 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 山下賢二 / 土谷正道